

5. 教務一般（専攻科）

- (1) グローバル地域創生工学専攻開設科目・・・・・・・・・・P1
- (2) 特別研究について・・・・・・・・・・P10
- (3) 校外実習について・・・・・・・・・・P10
- (4) 秋田工業高等専門学校専攻科授業科目履修規則・・・・・・・・P11
- (5) 試験の種類・・・・・・・・・・P16
- (6) 試験時における学生心得・・・・・・・・・・P16
- (7) 欠席、欠課について・・・・・・・・・・P17
- (8) 再試験について・・・・・・・・・・P17
- (9) 成績通知表について・・・・・・・・・・P17

(1) グローバル地域創生工学専攻開設科目

区分	必修 選択 の別	授 業 科 目	単 位 数	学期別配当				備 考	
				1 学年		2 学年			
				前	後	前	後		
一 般 科 目	外 国 語	必修	応用英語 I	2	2			M・E・C・Bコース	
		選択	応用英語 II	2		2		E・C・Bコースは必修 Mコースは選択	
		選択	応用英語 III	2			2	M・E・C・Bコース	
	一 般 科 目		必修	情報数学	2	2			M・E・C・Bコース
			選択	物理数学	2	2			M・Bコースは必修 E・Cコースは選択
			選択	力学	2	2			M・E・Bコースは必修 Cコースは選択
			選択	電磁気学	2		2		E・Cコースは必修 M・Bコースは選択
			選択	熱・統計力学	2	2			M・Cコースは必修 E・Bコースは選択
			選択	固体材料工学	2			2	M・E・C・Bコース
			選択	日本文化論	2			2	M・E・C・Bコース
		必修	地域産業・経済・文化	2		2		M・E・C・Bコース	
		選択	一般社会経済史	2			2	M・E・C・Bコース	
		小 計	24	10	6	4	4		
専 門 科 目	(注1) 専門 共通 科目	選択	機械工学概論	2	2			E・C・Bコースは必修 Mコースは受講不可	
		選択	電気情報工学概論	2	2			M・C・Bコースは必修 Eコースは受講不可	
		選択	物質工学概論	2	2			M・E・Bコースは必修 Cコースは受講不可	
		選択	建設工学概論	2	2			M・E・Cコースは必修 Bコースは受講不可	
		選択	機械工学総論	2		2		E・C・Bコースは選択 Mコースは受講不可	
		選択	電気情報工学総論	2		2		M・C・Bコースは選択 Eコースは受講不可	
		選択	物質工学総論	2		2		M・E・Bコースは選択 Cコースは受講不可	
		選択	建設工学総論	2		2		M・E・Cコースは選択 Bコースは受講不可	
		小 計	16	8	8				

区分	必修 選択 の別	授 業 科 目	単 位 数	学期別配当				備 考
				1 学年		2 学年		
				前	後	前	後	
専 門 科 目	演 習 科 目	必修	創造工学演習基礎	2	2			M・E・C・Bコース
		必修	P B L 工学演習基礎	2		2		M・E・C・Bコース
		必修	創造工学演習	2			2	M・E・C・Bコース
		必修	P B L 工学演習	2			2	M・E・C・Bコース
			小 計	8	2	2	2	
	関 連 専 門 科 目	選択	精密加工学	2		2		Mコースは必修 E・C・Bコースは選択
		選択	メカトロニクス	2			2	Mコースは必修 E・C・Bコースは選択
		選択	生産システム工学	2			2	M・E・Cコースは必修 Bコースは選択
		選択	画像処理工学	2		2		Eコースは必修 M・C・Bコースは選択
		選択	システム情報工学	2		2		E・Bコースは必修 M・Cコースは選択
		選択	応用電磁気	2			2	Eコースは必修 M・C・Bコースは選択
		選択	電気化学の基礎	2			2	Cコースは必修 M・E・Bコースは選択
		選択	高分子物性論	2			2	Cコースは必修 M・E・Bコースは選択
		選択	無機・分析化学基礎	2		2		Cコースは必修 M・E・Bコースは選択
		選択	防災システム工学	2			2	Bコースは必修 M・E・Cコースは選択
		選択	コンクリート工学	2		2		Bコースは必修 M・E・Cコースは選択
		選択	環境緑化保全工学	2		2		C・Bコースは必修 M・Eはコースは選択
			小 計	24		12	12	
		コ ー ス 専 門 科 目	選択	高速流体力学特論	2	2		2
	選択		伝熱工学特論	2		2	2	Mコースは必修 E・C・Bコースは選択
	選択		振動工学特論	2		2	2	Mコースは必修 E・C・Bコースは選択
	選択		情報理論特論	2	2		2	Eコースは必修 M・C・Bコースは選択
	選択		エネルギー変換工学特論	2		2	2	Eコースは必修 M・C・Bコースは選択
	選択		光電子工学特論	2	2		2	Eコースは必修 M・C・Bコースは選択
選択	反応工学特論		2	2		2	Cコースは必修 M・E・Bコースは選択	
選択	微生物工学特論		2	2		2	Cコースは必修 M・E・Bコースは選択	

区分	必修 選択 の別	授 業 科 目	単 位 数	学期別配当				備 考	
				1 学年		2 学年			
				前	後	前	後		
専 門 科 目	コ ー ス 専 門 科 目	選択	有機合成化学特論	2	2		2	Cコースは必修 M・E・Bコースは選択	
		選択	地盤工学特論	2	2		2	Bコースは必修 M・E・Cコースは選択	
		選択	環境地域計画学特論	2		2		2	Bコースは必修 M・E・Cコースは選択
		選択	構造力学特論	2	2		2		Bコースは必修 M・E・Cコースは選択
		小 計		24	16	8	16	8	
	特 別 研 究	選択	地域課題解決型特別研究	8	8				M・E・C・Bコース (3科目から1科目を 選択必修)
		選択	国際・企業連携型特別研究	8	8				
		選択	一般特別研究	8	8				
		選択	地域課題解決型特別研究	8			8		M・E・C・Bコース (3科目から1科目を 選択必修)
		選択	国際・企業連携型特別研究	8			8		
		選択	一般特別研究	8			8		
		小 計		48	24		24		
	自 由 選 択 科 目	自由	関連基礎科目	2					M・E・C・Bコース (4単位以下)
		自由	校外実習Ⅰ	1	1				M・E・C・Bコース
		自由	校外実習Ⅱ	2	2				M・E・C・Bコース
		自由	校外実習Ⅲ	4	4				M・E・C・Bコース
		自由	単位互換科目	2					M・E・C・Bコース
		小 計		11	7				

(注1) 専門共通科目選択方法

Mコース：電気情報工学総論，物理工学総論，建設工学総論から4単位以上を選択

Eコース：機械工学総論，物質工学総論，建設工学総論から4単位以上を選択

Cコース：機械工学総論，電気情報工学総論，建設工学総論から4単位以上を選択

Bコース：機械工学総論，電気情報工学総論，物質工学総論から4単位以上を選択

履修モデル

機械工学コース

履 修 モ デ ル							
科目区分	授業科目の名称		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	備考
一般科目	外国語	応用英語Ⅰ 応用英語Ⅱ 応用英語Ⅲ	必修	選択	選択		<p>「専門共通科目」の総論科目は、自分のコース以外の科目を2科目4単位以上選択必修</p> <p>「特別研究(1)」「特別研究(2)」はそれぞれ3科目から1科目を選択必修</p>
	一般	情報数学 物理数学 力学 電磁気学 熱・統計力学 固体材料工学 日本文化論 地域産業・経済・文化 一般社会経済史	必修 必修 必修	選択	選択	選択 選択	
専門科目	専門共通科目	機械工学概論 電気情報工学概論 物質工学概論 建設工学概論 機械工学総論 電気情報工学総論 物質工学総論 建設工学総論	受講不可 必修 必修 必修	受講不可 選択 選択 選択			
	演習科目	創造工学演習基礎 PBL工学演習基礎 創造工学演習 PBL工学演習	必修	必修	必修	必修	
	関連専門科目	精密加工工学 メカトロニクス 生産システム工学 画像処理工学 システム情報工学 応用電磁気 電気化学の基礎 高分子物性論 無機・分析化学基礎 防災システム工学 コンクリート工学 環境緑化保全工学		必修 選択 必修 選択 選択 選択	必修 必修 選択 選択 選択		
	コース専門科目	高速流体力学特論 伝熱工学特論 振動工学特論 情報理論特論 エネルギー変換工学特論 光電子工学特論 反応工学特論 微生物工学特論 有機合成化学特論 地盤工学特論 環境地域計画学特論 構造力学特論	必修 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	必修 必修 必修 選択 選択 選択 選択	必修 選択 選択 選択 選択 選択	必修 必修 必修 選択	
	特別研究	地域課題解決型特別研究 国際・企業連携型特別研究 一般特別研究 地域課題解決型特別研究 国際・企業連携型特別研究 一般特別研究		選択 選択 選択		選択 選択 選択	
	自由選択科目	関連基礎科目 校外実習Ⅰ 校外実習Ⅱ 校外実習Ⅲ 単位互換科目		選択 選択 選択			

電気情報工学コース

履 修 モ デ ル								
科目区分	授業科目の名称		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	備考	
一般科目	外国語	応用英語Ⅰ 応用英語Ⅱ 応用英語Ⅲ	必修	必修	選択		<p>「専門共通科目」の総論科目は、自分のコース以外の科目を2科目4単位以上選択必修</p> <p>「特別研究(1)」「特別研究(2)」はそれぞれ3科目から1科目を選択必修</p>	
	一般	情報数学 物理数学 力学 電磁気学 熱・統計力学 固体材料工学 日本文化論 地域産業・経済・文化 一般社会経済史	必修 選択 必修	必修	選択	選択 選択		
専門科目	専門共通科目	機械工学概論 電気情報工学概論 物質工学概論 建設工学概論 機械工学総論 電気情報工学総論 物質工学総論 建設工学総論	必修 受講不可 必修 必修	選択 受講不可 選択 選択				
	演習科目	創造工学演習基礎 PBL工学演習基礎 創造工学演習 PBL工学演習	必修	必修	必修	必修		
	関連専門科目	精密加工工学 メカトロニクス 生産システム工学 画像処理工学 システム情報工学 応用電磁気 電気化学の基礎 高分子物性論 無機・分析化学基礎 防災システム工学 コンクリート工学 環境緑化保全工学		選択 必修 必修 選択 選択 選択	選択 必修 必修 必修 選択			
	コース専門科目	高速流体力学特論 伝熱工学特論 振動工学特論 情報理論特論 エネルギー変換工学特論 光電子工学特論 反応工学特論 微生物工学特論 有機合成化学特論 地盤工学特論 環境地域計画学特論 構造力学特論	選択 必修 必修 必修 選択 選択 選択 選択 選択	必修 選択 必修 選択 選択 選択	選択 必修 必修 必修 選択 選択	必修 選択 必修 選択 選択 選択		
	特別研究	地域課題解決型特別研究 国際・企業連携型特別研究 一般特別研究 地域課題解決型特別研究 国際・企業連携型特別研究 一般特別研究		選択 選択 選択		選択 選択 選択		
	自由選択科目	関連基礎科目 校外実習Ⅰ 校外実習Ⅱ 校外実習Ⅲ 単位互換科目		選択 選択 選択				

物質工学コース

履 修 モ デ ル								
科目区分	授業科目の名称	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	備考		
一般科目	外国語 応用英語Ⅰ 応用英語Ⅱ 応用英語Ⅲ	必修	必修	選択		<p>「専門共通科目」の総論科目は、自分のコース以外の科目を2科目4単位以上選択必修</p> <p>「特別研究(1)」「特別研究(2)」はそれぞれ3科目から1科目を選択必修</p>		
	一般 情報数学 物理数学 力学 電磁気学 熱・統計力学 固体材料工学 日本文化論 地域産業・経済・文化 一般社会経済史	必修 選択 選択 必修	必修	必修	選択		選択 選択	
専門科目	専門共通科目 機械工学概論 電気情報工学概論 物質工学概論 建設工学概論 機械工学総論 電気情報工学総論 物質工学総論 建設工学総論	必修 必修 受講不可 必修		選択 選択 受講不可 選択				
	演習科目 創造工学演習基礎 PBL工学演習基礎 創造工学演習 PBL工学演習	必修	必修	必修	必修			
	関連専門科目 精密加工工学 メカトロニクス 生産システム工学 画像処理工学 システム情報工学 応用電磁気 電気化学の基礎 高分子物性論 無機・分析化学基礎 防災システム工学 コンクリート工学 環境緑化保全工学		選択 選択 選択 必修 選択 必修	選択 選択 選択 必修 選択 選択	選択 必修 必修 必修 選択			
	コース専門科目	高速流体力学特論 伝熱工学特論 振動工学特論 情報理論特論 エネルギー変換工学特論 光電子工学特論 反応工学特論 微生物工学特論 有機合成化学特論 地盤工学特論 環境地域計画学特論 構造力学特論	選択 選択 選択 選択 必修 必修 必修 必修 選択 選択	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択			選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択
		特別研究 地域課題解決型特別研究 国際・企業連携型特別研究 一般特別研究 地域課題解決型特別研究 国際・企業連携型特別研究 一般特別研究		選択 選択 選択				選択 選択 選択
		自由選択科目 関連基礎科目 校外実習Ⅰ 校外実習Ⅱ 校外実習Ⅲ 単位互換科目		選択 選択 選択				

建設工学コース

履 修 モ デ ル							
科目区分	授業科目の名称	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	備考	
一般科目	外国語	応用英語Ⅰ 応用英語Ⅱ 応用英語Ⅲ	必修	必修	選択		
	一般	情報数学 物理数学 力学 電磁気学 熱・統計力学 固体材料工学 日本文化論 地域産業・経済・文化 一般社会経済史	必修 必修 必修 選択	選択 必修	選択 選択	選択 選択	
専門科目	専門共通科目	機械工学概論 電気情報工学概論 物質工学概論 建設工学概論 機械工学総論 電気情報工学総論 物質工学総論 建設工学総論	必修 必修 必修 受講不可	選択 選択 選択 受講不可			
	演習科目	創造工学演習基礎 PBL工学演習基礎 創造工学演習 PBL工学演習	必修	必修	必修	必修	
	関連専門科目	精密加工工学 メカトロニクス 生産システム工学 画像処理工学 システム情報工学 応用電磁気 電気化学の基礎 高分子物性論 無機・分析化学基礎 防災システム工学 コンクリート工学 環境緑化保全工学		選択 選択 必修 選択 必修 必修	選択 選択 選択 選択 選択 必修		<p>「専門共通科目」の総論科目は、自分のコース以外の科目を2科目4単位以上選択必修</p> <p>「特別研究(1)」「特別研究(2)」はそれぞれ3科目から1科目を選択必修</p>
	コース専門科目	高速流体力学特論 伝熱工学特論 振動工学特論 情報理論特論 エネルギー変換工学特論 光電子工学特論 反応工学特論 微生物工学特論 有機合成化学特論 地盤工学特論 環境地域計画学特論 構造力学特論	選択 選択 選択 選択 選択 選択 選択 必修 必修	選択 必修 選択 選択 必修	選択 選択 選択 選択 選択 必修 必修	選択 必修 選択 選択 必修 必修	
	特別研究	地域課題解決型特別研究 国際・企業連携型特別研究 一般特別研究 地域課題解決型特別研究 国際・企業連携型特別研究 一般特別研究		選択 選択 選択		選択 選択 選択	
	自由選択科目	関連基礎科目 校外実習Ⅰ 校外実習Ⅱ 校外実習Ⅲ 単位互換科目		選択 選択 選択			

グローバル地域創生工学専攻の修了要件（修了に必要な修得単位数）

機械工学コース

必修科目					選択必修科目		選択科目を含めた合計
一般科目	専門 共通科目 (概論)	演習科目	関連 専門科目	コース 専門科目	専門 教育科目 (総論)	特別研究	
12単位	6単位	8単位	8単位	8単位	4単位以上	16単位	62単位以上

※学位授与申請のためには、専攻科の修了要件に加えて、「画像処理工学」「校外実習Ⅰ」「校外実習Ⅱ」「校外実習Ⅲ」から1科目以上履修する必要があります。

電気情報工学コース

必修科目					選択必修科目		選択科目を含めた合計
一般科目	専門 共通科目 (概論)	演習科目	関連 専門科目	コース 専門科目	専門 教育科目 (総論)	特別研究	
12単位	6単位	8単位	8単位	8単位	4単位以上	16単位	62単位以上

物質工学コース

必修科目					選択必修科目		選択科目を含めた合計
一般科目	専門 共通科目 (概論)	演習科目	関連 専門科目	コース 専門科目	専門 教育科目 (総論)	特別研究	
12単位	6単位	8単位	10単位	6単位	4単位以上	16単位	62単位以上

建設工学コース

必修科目					選択必修科目		選択科目を含めた合計
一般科目	専門 共通科目 (概論)	演習科目	関連 専門科目	コース 専門科目	専門 教育科目 (総論)	特別研究	
12単位	6単位	8単位	8単位	8単位	4単位以上	16単位	62単位以上

※学位授与申請のためには、専攻科の修了要件に加えて、「微生物工学特論」「校外実習Ⅰ」「校外実習Ⅱ」「校外実習Ⅲ」から1科目以上履修する必要があります。

(2) 特別研究について

ア 総説

特別研究は、専攻分野における特定の研究テーマについて、指導教員の下で個々に研究を行い、その研究結果を論文としてまとめ、併せて研究開発能力を育成することを目的とする。なお、研究テーマによって、「地域課題解決型」、「国際・企業連携型」、「一般」の特別研究に区分される。これらの区分の趣旨を理解した上で、短期または長期に渡る社会実装技術、あるいはその基盤となる技術開発に係る特別研究のテーマを遂行する。

イ 指導教員、研究テーマの選択方法および決定

- ① 学生は、「指導教員リスト」の中からコースの教員が設定した研究テーマを選択する。
- ② 学生は、希望する研究テーマの指導教員に接触し、指導教員の押印を付した別紙様式6の「特別研究テーマ選択届」を学生課教務係に期限までに提出する。

ウ 学修総まとめ科目について

- ① 2年次の特別研究は、学位授与機関である大学改革支援・学位授与機構に「学修総まとめ科目」として登録している。
- ② 学修総まとめ科目は、専攻科課程におけるすべての科目の総まとめとして位置づけられることを認識した上で、1年次の特別研究のみならず、他の科目履修を計画的に行う。

(3) 校外実習について

ア 校外実習修了証明書

実習先の担当者に証明書用紙を提出し、実習期間終了時に証明してもらうこと。

イ 校外実習評価報告書

実習先の担当者に報告書用紙を提出し、実習期間終了時に作成してもらうこと。

ウ 校外実習日誌

実習期間終了時に実習内容をすべて記入し、実習先の担当者に内容を確認してもらうこと。

※校外実習修了証明書・校外実習評価報告書・校外実習日誌は、副専攻科長へ提出する。

エ 単位認定について

評価は校外実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを別々に、100点法で評価する。

オ インターンシップ活動傷害保険の加入

実習に参加する学生には傷害保険の加入が実習先から義務づけられている場合が多いので、インターンシップ傷害保険に必ず加入すること。

カ インターンシップ活動賠償責任保険の加入

傷害保険と同時加入(特約)になる。また、学校が加入している総合賠償責任保険も適用される。

秋田工業高等専門学校専攻科授業科目履修規則

(目的)

第1条 この規則は、秋田工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第50条の規定に基づき、秋田工業高等専門学校専攻科（以下「専攻科」という。）に開設されている授業科目の履修に係る事項を定めることを目的とする。

(授業)

第2条 専攻科の授業は、1授業時間を標準90分とし、15回の授業をもって2単位に計算する。

2 授業は、講義、演習及び実験のいずれか、またはこれらの併用により行う。

(履修方法)

第3条 専攻科学生（以下「学生」という。）が、専攻科に開設されている授業科目の履修に当たっては、年度始めに別に定める受講申告書（別紙様式1，2）を所定の期日までに学生課に提出しなければならない。

(成績の評価)

第4条 成績は、授業科目ごとに、当該授業科目の実授業時数の4分の3以上の出席がある科目について、試験の成績及び平素の成績を総合して100点法によって評価し、次の区分によって優、良、可又は不可の評語で表し、優、良、可を合格とする。出席が当該授業科目の4分の3に満たない場合は、59点以下の点数で評価して、不可と判定する。

ただし、校長の認める理由（長期病欠その他）のある場合は、3分の2以上の出席がある場合については、4分の3以上の出席がある場合と同様に評価し、優、良、可又は不可の評語で評定する。

評 語	評 定 区 分
優	80点以上
良	65点以上79点まで
可	60点以上64点まで
不 可	59点以下

(異議申し立て)

第4条の2 当該期の成績評価及び出欠について、異議申し立てを記載した「成績評価・出欠等についての異議申し立て書」により、異議を申し立てることができる。

2 異議申し立て期間は、年度ごとに校長の承認を経て、決定する。

3 第1項の申し立てがあった場合は、専攻科長が当該関係教員と協議の上、学生への回答を行うものとする。

(試験)

第5条 試験の種類は、到達度試験及びその他の試験とする。

- 2 到達度試験は、前期末及び後期末に実施し、それぞれの試験の名称を前期末試験、後期末試験とする。この時間割は試験開始の10日前までに通知する。
- 3 試験の内容及び方法は、授業科目担当教員が定める。なお、平素の成績によって評価しうる授業科目については、試験の全部又は一部を行わないことができる。
- 4 病気その他やむを得ないと認められる理由によって、到達度試験を受験できなかった学生については、追試験を行うことができる。追試験の成績は、第4条の規定に準ずる。
- 5 成績が不可と評価された学生については、再試験を行うことができる。再試験の成績は最高60点として評価する。
- 6 第9条第2項によって実施される試験の名称は追加認定試験とする。
- 7 試験において不正行為を行った者に対するその年度での対応は以下とする。
 - (1) 前期末試験またはその追試験において不正行為を行った場合は、その時間以降の受験を停止させ、全科目の前期末試験とその追試験の成績を0点とする。平素の成績等がある科目の場合は、平素の成績等を前期末の成績とする。不正行為を行った科目の再試験は実施しない。この対応は、後期末試験とその追試験において不正行為を行った場合も同様とする。
 - (2) 前期の再試験において不正行為を行った場合は、その時間以降の受験を停止させ、全科目の前期の再試験の成績を0点とする。この対応は、後期の再試験において不正行為を行った場合も同様とする。
 - (3) 追加認定試験において不正行為を行った場合は、その時間以降の受験を停止させ、全科目の追加認定試験の成績を0点とする。課題の成績等がある科目の場合は、この成績をその科目の成績とする。

(単位)

第6条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、特別研究の授業科目については、学修の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には、必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(単位の認定)

第7条 単位の認定は、第4条の規定に基づき、成績が優、良及び可と評価された当該授業科目に対応する単位で行う。

(大学等における授業科目の履修)

第8条 大学、短期大学及び他の高等専門学校の特攻科等で開設されている授業科目の履修を希望する学生は、あらかじめ指導教員の許可を得た上で、所定の期日までに受講届を学生課に提出しなければならない。これにより、履修の上修得した単位は、20単位を限度として、特攻科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(再履修)

第9条 到達度試験等で不合格となった授業科目のうち、修得する必要がある授業科目は、原則として次年度に再履修しなければならない。

2 再履修する場合も第3条に規定する手続きを執らなければならない。ただし、授業科目担当教員が認めた場合に限り、特別の試験等により単位認定することができる。

(修了要件)

第10条 特攻科の修了認定は、教務委員会の議を経て、運営会議が認定する。

2 特攻科を修了するためには、学則第47条に規定する教育課程により、62単位以上（必修42単位、選択20単位以上）を履修、修得しなければならない。

附 則

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、改正後の第10条第1項は平成18年1月10日から適用する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成23年7月29日から施行する。ただし、改正後の第10条の規定は平成24年4月1日から適用する。

2 この規則施行時において在学する学生について、校長が認める場合、改正後の第10条の規定を適用することができる。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成28年12月7日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、令和3年1月6日から施行する。

附 則

この規則は、令和6年2月19日から施行し、令和4年度入学者から適用する。

附 則

この規則は、令和7年12月24日から施行し、令和7年4月1日から適用する。

成績評価・出欠等についての異議申立書

令和____年____月____日

秋田工業高等専門学校長 殿

専攻 第____学年（学籍番号____番）

氏 名 _____

1. 異議申し立て科目

前期・後期 集中	曜日	時限	科目名	担当教員

2. 異議申し立てをする理由（該当番号を○で囲み，異議申し立ての内容を具体的かつ詳細に記入すること）

- 1) 成績の誤記入等，明らかに担当教員の誤りと思われるため
- 2) シラバスや授業時間内での指示等により周知している成績評価の方法から，明らかに逸脱した評価であると思われるため
- 3) その他

(具体的内容)

3. 回答（科目担当教員が記載しますので，学生は記載しないこと）

(5) 試験の種類

試験区分	摘 要
到達度試験	前期末、後期末に実施する。
追 試 験	到達度試験に欠席した場合で、病気その他の事故でやむを得ない理由があったと認められる者について実施するもの。
再 試 験	成績不振者に対し授業担当者の判断で実施するもの。

(6) 試験時における学生心得

試験の際には、次の点に注意すること。

- ① 学生が机の上に置けるものは、メガネ、筆記用具（黒鉛筆、シャープペンシル、シャープペンシルの芯、消しゴム、鉛筆削り）、時計（計時機能だけのもの）、ティッシュペーパー（袋から中身のみ取り出すこと）及び当該試験において持込みを許可されたもの。また、電卓及び消しゴムについては、ケースから外し、ケースは机の上に置かないこと。
- ② 上記1以外のもの及び机の中のものについては、カバンの中に入れて閉めること。
- ③ 携帯電話等通信機器を所持している場合は電源を切り、カバンの中に入れて閉めること。
- ④ ティッシュペーパー及びひざ掛けの使用を希望する場合は、手を挙げて申し出ること。
- ⑤ 試験終了後に大きな声を出す等の行為は他の学生の迷惑行為になるので行わないこと。
- ⑥ **不正行為**を行った学生は、到達度試験等の場合、当該試験期間中に実施する全科目の点数を全て0点とし、再試験の対象としない。再試験、追加認定試験の場合、再試験、追加認定試験の全科目の点数を0点とする。但し、再試験については、学生課に実施報告があったものに限る。

不正行為とは次のことをいう。

- ・上記1～5を遵守しない場合。
- ・カンニングペーパー等を使用または所持している場合。
- ・他の学生の答案をのぞき見る行為またはそれに類似する行為を行った場合。
- ・その他監督者の注意を無視し、試験を妨害する行為を行った場合。

(7) 欠席、欠課について

欠席又は欠課しなければならない場合は、事前に欠席又は欠課の届出をすることになっている。不測の事由が発生して欠席又は欠課する場合は、事後に必ず欠席または欠課の届出を指導教員を経由して学生課教務係に提出すること。

① 遅刻及び欠課の取り扱い

遅刻は、授業開始後10分までを遅刻とし、10分を超えた場合を欠課とする。

② 出席停止について

学校感染症の場合は、医師の診断書または通院証明書を教務係に提出し、出席停止の手続きをとること。

③ 忌引について

忌引の期間は、父母が7日、祖父母・兄弟姉妹が3日、伯叔父母・曾祖父母が1日である。

④ 出席日数の取り扱い

出席停止、忌引、停学の日数は、出席すべき日数には含まれないので留意すること。

(8) 再試験について

合格点に達しない場合、行うことがある。ただし、その対象者については、欠課時数、遅刻回数総数が授業時数の4分の1を越えていないこと、さらに出席しなかった授業に関して、その授業の内容を学習した証拠となる資料、または教科担当教員から指示された課題を提出した者を対象とする。

(9) 成績通知表について

成績通知表は学生に直接配付する。